

おいかわ

及川 みゆき

国際医療協力局
連携協力部 展開支援課 保健師



★略 歴

- 1990 神奈川県足柄上郡中井町役場
- 1994 独立行政法人国際協力機構(以下、JICA) 青年海外協力隊 セネガル共和国
- 1997 西横浜国際総合病院
- 2001 JICA長期専門家 (ベトナム・リプロダクティブヘルスプロジェクト)
- 2004 JICA 西アフリカ地域支援事務所保健分野企画調査員
- 2010 修士 (公衆衛生学) 取得 (筑波大学大学院)
- 2011 JICA 長期専門家 (セネガル・母子保健サービス改善プロジェクト)
- 2013 JICA セネガル事務所保健分野企画調査員
- 2017 国際医療協力局入職
- 2018 博士 (ヒューマン・ケア科学) 取得 (筑波大学大学院)
- 2018 (出向) JICA 長期専門家 (コンゴ民主共和国・保健人材開発支援プロジェクト)

★現在の主な担当業務

- ・低・中所得国の保健医療分野における教育・研修プログラムのインパクト評価研究
- ・保健システムチーム

——— 及川さんが、医師、国際協力を目指したきっかけを教えてください。

両親共働きだったので赤ちゃんの頃から母親の職場の小さな託児施設に預けられていました。託児所の看護師さんとは家族ぐるみのお付き合いで、身近に素敵な看護師さんがいたことが看護師を目指したきっかけです。子どもの頃からテレビ越しで知る文化の違う海外の生活にも憧れていました。またボランティアにも興味があり、高校時代は重症心身障害児施設、看護学生時代は車椅子バスケットの試合の支援をしていました。開発途上国に目を移せば、生まれた国が違うだけで利用できる保健サービスの質や量が違うのは不公平だと思い、人を対象とする保健分野ならばどの国でも応用が利くので、自分もその不平等の是正に何かできることがあると思ったのがきっかけです。

国際医療協力局に入職する前のキャリアを教えてください。

看護学生時の保健所実習で公衆衛生への関心が高まり、また、指導を受けた保健師さんからも「保健師になりなさい」と勧められ、保健師学校に進学しました。保健師として経験を積んだあと、青年海外協力隊への参加を計画していたので、大きな組織ではなく小さい町役場に就職先しました。

町役場の保健師は私を含め2人、しかも入職早々先輩保健師さんが結婚、育休で1人になってしまいました。非常勤の保健師さん、看護師さん、県保健所の保健師さんに助けをもらいながらすべての事業を担当することになりました。当時は大変でしたが、今思えばマネジメントを学ぶ良い機会となりました。

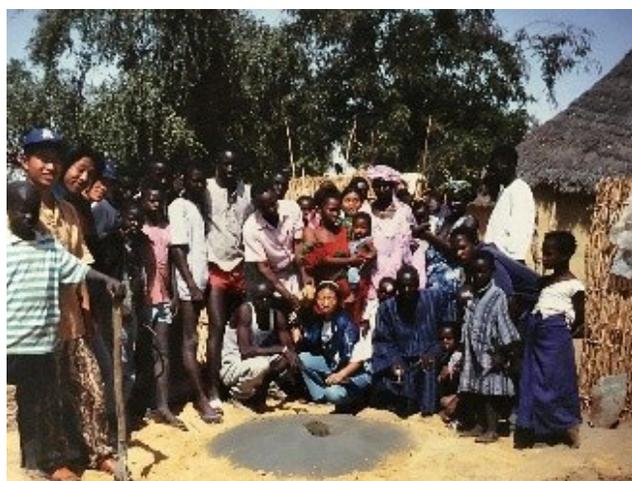
保健師として町役場で4年勤務したあとは、青年海外協力隊の保健師隊員として西アフリカのセネガル共和国に派遣されました。赴任先は人口2千人、水道も電気もない村でしたが、快適に暮らす工夫をするのは楽しく、近所のセネガル人が毎日のように様子を見に来てくれ、人が持っている美しいものに触れる機会に恵まれました。協力隊時代は健康な生活をするための土台作りのため、井戸やトイレづくりに精を出していました。



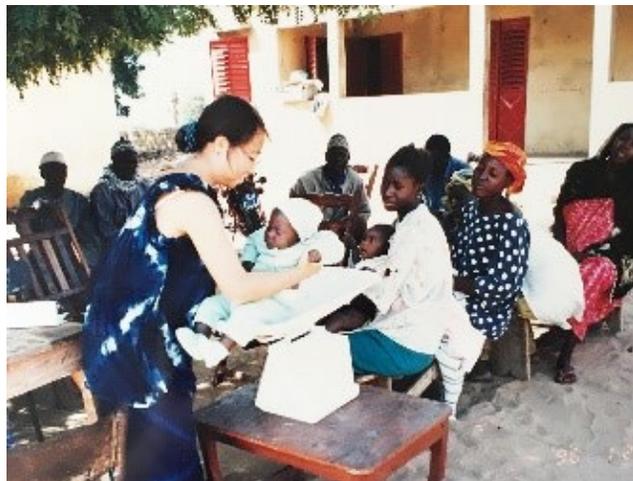
Fimula村のみんなと自宅でキャンプファイヤー



同僚のジェンメ DIOFIOR保健センター衛生技官とマルファファコ村に船で移動



みんなでトイレづくり（試作品）



村への巡回（予防接種と体重測定）

帰国後は自分に足りない技術や知識を補うため、病院で看護師として働いたり、大学に編入して国際交流学を学んだり、産業保健師として企業で働いたりしました。大学在学中は国際開発論を学び、国際政治学教授のゼミで指導を受けました。また在学中インターンをしていた国際協力NGOジョイセフ (JOICFP) ※1 に声をかけていただき、卒業後はジョイセフが関わっていたベトナム社会主義共和国でのJICAリプロダクティブヘルス※2プロジェクトの長期専門家(保健師)として2年間従事し、住民組織づくりやIEC活動※3に携わりました。2004年以降はJICA事務所保健分野企画調査員、母子保健プロジェクト等、主に仏語圏アフリカで実施されているJICAの保健分野の仕事に応募し、契約ベースで働いてきました。



⇐2007年第三国研修案件形成セミナー(写真前列右: 及川保健師)



2006年セネガル保健人材開発支援プロジェクトが実施した国際看護セミナーに参加(写真前から2列目右: 及川保健師)

※1 ジョイセフは、女性のいのちと健康を守るために活動している日本生まれの国際協力NGOです。

※2 日本では一般に「性と生殖に関する健康」と訳されます。

性や子どもを産むことに関するすべてにおいて、身体的にも精神的にも社会的にも本人の意思が尊重され、自分らしく生きられることです。(ジョイセフホームページより)

※3 Information, Education and Communication活動 = 保健教育活動

国際医療協力局に入職したきっかけ、理由、決め手はなんだったんですか。

JICAセネガル事務所にて保健分野の企画調査員として勤務していた際、NCGMが関わっていた保健案件を担当しており、NCGM協力局の方々と一緒に仕事をする機会が多くありました。協力局の方々から学ぶことが本当に多く、また気軽に相談できる存在でもありました。いい組織だなあとは思っていましたが、看護職として入職するのはハードルが高そうと思っていたところ、協力局の看護職を募集しているよと声をかけていただきました。



2007年 JICA短期専門家で西アフリカ ブルキナファソ出張マラリア案件形成のため聞き取り調査

——— 今後の展望や夢を教えてください。

セネガルに9年、コンゴ民主共和国に3年住んでいました。日本にはない栄養価の高そうな野菜や果物がたくさんありました。ビタミンAや鉄剤等薬の処方が必要なものもありますが、ビタミンAや鉄剤を含む食品も多くあると思います。各家庭で健康にいい野菜や果樹、樹木を植えて日常生活の中で活用していく等、保健・農業・教育のコンポーネントが入ったコミュニティ開発型のプロジェクトをセネガルでいつかやってみたいと思っています。



NCGM入職後 第4回保健人材フォーラム
(アイルランド ダブリン)
仏語圏保健人材ネットワークのメンバーと記念写真
(写真前列左から2番目：及川保健師)



NCGM新人研修 (ベトナム)
(写真前列左から2番目：及川保健師)

——— 最後に、これから国際医療協力の世界を目指そうとしている人にメッセージをお願いします。



日本国内外問わず、いろいろな関わり方があると思います。私は臨床ではなく、保健行政側から国際医療協力に関わりました。保健医療従事者の場合、日本で経験を積むことが海外での応用力につながると思います。また、開発途上国では日本に比べると高等教育を受けられる方が限られており、私たちの同僚はそのような限られた人材でとても優秀です。ただ、優秀なCPとの関わりだけではその国の保健ニーズを理解することはできないので、一般の人々の暮らしを知ることが大切だと思っています。

コミュニケーションツールとしての言語（英語、仏語）、専門分野の研鑽、人としての成長への努力には終わりがなく、学び続けることができる人が結果、良い仕事ができるのだと感じています。私の場合、ありがたいことに素晴らしいロールモデルの方々との出会いがありました。自分のロールモデルを持つことも励みになると思います。

——— ありがとうございました。